

複合性局所疼痛症候群

CRPS

(complex regional pain syndrome)

編集 真下 節

大阪大学麻酔・集中治療医学；教授

柴田 政彦

大阪大学疼痛医学講座；教授

真興交易(株)医書出版部

漢方治療

複合性局所疼痛症候群（complex regional pain syndrome : CRPS）の病態は未だ解明されておらず，したがって，確立した根本的治療法というものは存在していない．今ある治療法はすべて対症療法であり，その目的は痛みコントロールを中心としたリハビリテーションの促進である．CRPSの病態を一言でいえば，それは「外傷などの治癒過程に基づく過剰な治癒反応」であると言えよう．東洋医学的にCRPSを表現すると「疼痛を生じる全身的な身体機能の失調」とも言える．一般的な外傷においては治癒過程の初期に多少の炎症反応を生じるが，そのような炎症もしだいに治まっていき治癒へと至る．ところがCRPSにおいては本来の治癒に向かう過程に障害をき

たし、治癒が遅延するのではないかと考えられる¹⁻³⁾。

CRPS の症状は病期において異なる。1つの典型例として初期においては浮腫が著しく、皮膚温は上昇し発汗は低下する病態がある。その後、数カ月の経過で皮膚や筋肉の萎縮が強くなり、皮膚温が低下すると共に発汗が亢進してくる。また、痛みの経過は多様で、痛みが強く血管運動障害が少ないものもあれば、痛みはほとんどなく、血管運動障害、発汗過多、チアノーゼが強い症例もある。これらの CRPS 症状が何らかの自律神経機能異常に伴ったものであると考えられている。病期においても病態そのものが違うため、おのおのの症状にあわせた治療が必要となる。とくに CRPS のような症状が多様な病態においてはその個々の病態や自覚症状に応じて薬剤を選択し、自律神経機能および全身状態の改善をはかりながら痛みの軽減、リハビリの促進させることが西洋医学、東洋医学にかかわらず治療の目標であろう^{4,5)}。

急性期の浮腫、発赤が強い時期には、患者は患部を冷やしたほうが楽である場合が多く、一般的には NSAIDs やステロイドなどの解熱性鎮痛薬が使用されることが多い。漢方においても同様に交感神経を賦活かさせるエフェドリンを有する麻黄や抗炎症作用を有する石膏、利水作用を有する蒼朮などが含まれたものが効果的である。臨床的には越婢加朮附湯や白虎加人参湯などが有効である。しかし、これらの薬剤は作用が強力なので、患部を目標とするあまりに使用しすぎて、患部以外が冷えすぎないように注意する必要がある。

中間期は、いわゆる皮膚温が上昇から下降への移行期であり自律神経の不均衡が生じていると考えられる。症状的には浮腫、発赤などを呈している時と、何らかの環境変化や刺激によってチアノーゼや冷感を呈する時とが交互に現れることがある。患肢は焼けるように熱いが、体は寒いといったアンバランスな症状を呈することがある。この時期には精神的なストレスが自律神経のバランスを増悪させ、痛みと共に、不安、抑うつ傾向になるため抗ストレス作用を有する柴胡が含まれた薬剤が効果的である。また、食欲不

振や不眠といった症状も出やすくなるので注意を要する。臨床的には柴苓湯、柴胡桂枝湯や補中益気湯が有効である。筆者は、むくみには柴苓湯、柴胡桂枝湯、全身倦怠感には補中益気湯を好んで用いている。

慢性期においては血流低下による皮膚温の低下、筋萎縮、色調は蒼白や暗黒色となり、いわゆる異栄養状態となる。このような時期には副交感神経優位に働きかけ、かつ補気、補血作用のある漢方薬を選択するとよい。皮膚温の低下があっても、浮腫が認められれば柴苓湯、六君子湯が有効である。また、浮腫傾向はなく、皮膚が暗赤色を呈して温度が低下し筋、皮膚の萎縮が認められる場合には血虚も伴っていると考え、十全大補湯、人參養榮湯を使用する。末梢の冷えには当帰四逆加呉茱萸生姜湯、痛みには保温による鎮痛効果を有する附子末を併用すると有効であろう。筆者は、疲労感と共に不眠を訴える患者には好んで加味帰脾湯を使用し効果を得ている¹⁻¹⁰⁾。

CRPSに対する漢方治療が最も有効なのは中間期から慢性期であると考えている。急性期は炎症反応が強いため、むしろステロイドやNSAIDsなど西洋医学的治療を中心として漢方治療をその補助とするのがよいであろう。筆者は移行期から慢性期にかけては発熱、発赤などの激しい急性炎症というより、冷感やむくみなども伴ういわゆる慢性的な炎症の状態であると考えている。そのため急性期のステロイドやNSAIDsなどの西洋医学的治療だけではあまり効果を示さず、むしろ胃腸障害などの副作用を起こしやすいと考えている。この時期こそ、漢方治療を中心として、そこに西洋治療を併用させるべきであろう。

文 献

- 1) 松村崇史：CRPS (RSD) の漢方治療－漢方薬治療の実際－。MB Orthop 2005; 18: 31-8
- 2) 松村崇史：手のRSDに対する漢方治療の経験。痛みと漢方 2002; 12: 51-1
- 3) 松村崇史：手の反射性交感神経性ジストロフィーに対する漢方治療の経験。Jpn J Orient Med 2002; 53: 37-40

- 4) 古瀬洋一：いわゆる反射性交感神経性ジストロフィー (RSD). MB Orthop 1995;8:1-8
- 5) Kurvers HA, Jacobs MJ, Beuk RJ, et al: Reflex sympathetic dystrophy: evolution of microcirculatory disturbances in time. Pain 1995;60:333-40
- 6) 春山克郎：運動器疾患と漢方. JIM 2002;12:557-60
- 7) 須藤和昌：左手の難治性疼痛 (RSD) に当帰四逆加呉茱萸生姜湯が著効を呈した1例. 痛みと漢方 2008;18:92-5
- 8) 千葉雅俊, 枝松 溝, 越後成志：頬骨骨折後に生じた CRPS type II に桂枝加朮附湯が奏効した1症例. ペインクリニック 2006;27:209-12
- 9) 渡辺廣昭：漢方薬併用により効果を示した右肩の難治性反射性交感神経性ジストロフィー (CRPS Type II) の1症例. 痛みと漢方 1998;8:41-3
- 10) 橋本禎敬：当帰四逆加呉茱萸生姜湯が著効が有用であった腰椎椎間板ヘルニア術後 RSD の1例. 痛みと漢方 2001;11:82-5

…… 井上隆弥